



夢のカタチ

新ながおかの人々が4つの新市地域らしさ価値を共有し、住民と行政が一体となってこの将来構想を推進し、活動を続けていく過程には、いろいろなたくさんの夢・プロジェクトが存在します。「夢のカタチ」は住民一人ひとりにそれぞれあるものです。



構想書の中のまちづくりの芽

孫 新ながおかの将来構想がまとまったみたいだけど、これからどう役立てていくの？

爺 この将来構想で、自分たちの地域を知ることができたね。それから、みんなが望むまちのかたちもはっきりしてきた。そして、そのために自分たちに何ができるか、何をしていくべきかが少しずつ見えてきたね。地域の素晴らしさを、自分たちと同じ地域の人に分かってもらえるし、他の地域の人たちにも伝えるために役立つよ。

孫 どういう活動をするかが出ているね。

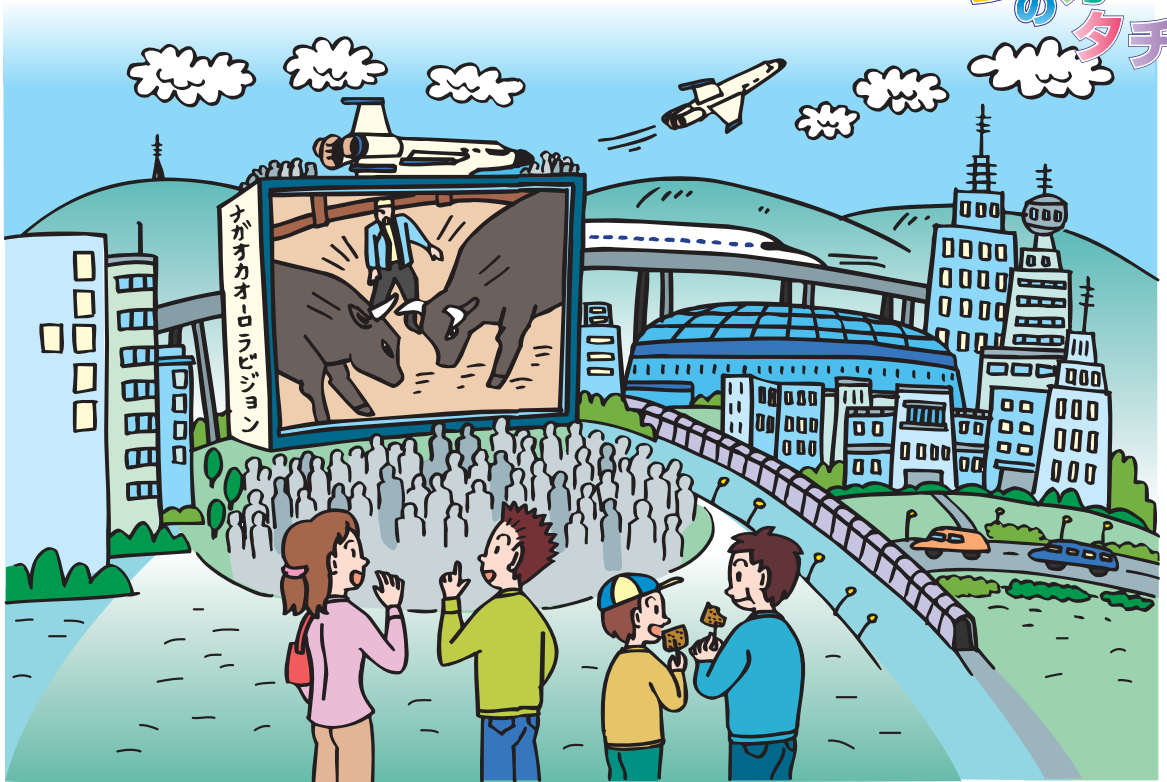
爺 何に力をいれるのか、そのためにどんな活動をするか、具体的にたくさん上がっていただろう。

孫 うん。それに、全体の取り組みと地域別の取り組みがあるね。

爺 地域別の取り組みは、その地域らしさを大切にして、その地域だからこそできる目標としてつくられているよ。

孫 地域と全体と別々のゴールがあるの？

爺 よく見てごらん。新ながおか全体の取り組みと、各地域の取り組みは関連しているんだよ。一つの地域が頑張ると、その地域がよくなる。それはほかの地域にも影響し、全体的に活動が活発になることにつながるよ。



孫 それぞれの地域が頑張って活動すると、全体の価値も高まるんだね。その中には、今あるものを新しい考え方で活用するいろいろな活動があったね。

爺 例えば「世界をつなぐ和らぎ交流都市」の発信のところに、ホワイトツーリズムというのが出ていたね。よその地域の人たちに雪を体験して楽しんでもらいながら、新ながおかのことも知ってもらおう方法の一つだよ。

孫 そうか。新潟は雪がたくさん降るけれど、交通が不便になって困るというだけじゃない。別の考え方をして雪を活かすということなんだね。雁木は雪が積もっても歩きやすいようにつくられたものだね。

爺 雁木は、安住都市につながる昔ながらの財産だね。これをつくるために、通りに面している家々が自分のところの土地を提供しているんだよ。地域の人、歩行者の便利を考えた交通対策だね。

孫 交通の便がよくなないと出かけるのが不便だし、人も来てくれない。まちにはとっても重要だよな。

爺 雪が降らないときでも、お年寄りやハンディキャップのある人は外出が大変だよ。雪に強いモノレールのような新交通システムなんかもあれば便利だと思う

な。安住都市は、こうしたことを含めて安心できるまちが実現するってことだね。

孫 みんなで協力して知恵を絞れば、新しい移動の仕組みもできるかも。

爺 地域は水が豊かだけれど、これももっと活用したい地域の財産だね。

水の汚染や水不足が世界的に進んでいて、21世紀は水資源の管理がますます重要になってくるそうだよ。

孫 信濃川に水が流れ込んでいる。この水は、みんなの水でしょう？

爺 大きな川でたくさんの地域とつながっているから、そこの人たちと協力して活動していく必要があるね。地域の水がきれいだということは、ここの農産物や食べ物、飲み物も安全でおいしいといえる。元気な米産地という地域らしさ価値が高められて、食のブランドも開発されていくよ。

孫 活動に積極的なまちだと認められたら、世界水フォーラムのような会議を新ながおかでぜひやってください、ということになるかもね。そうしたら、国際コンベンションセンターの建設なんかも必要だね。

爺 世界をつなぐ和らぎ交流が盛んになってくれば、国際コンベンションセンターを必要とする時代も来るはずだよ。そのほかにもいろいろな可能性があるよ。



活動で可能性は広がる

孫 いろいろ実現していくようになって、空港とかもできるかな？

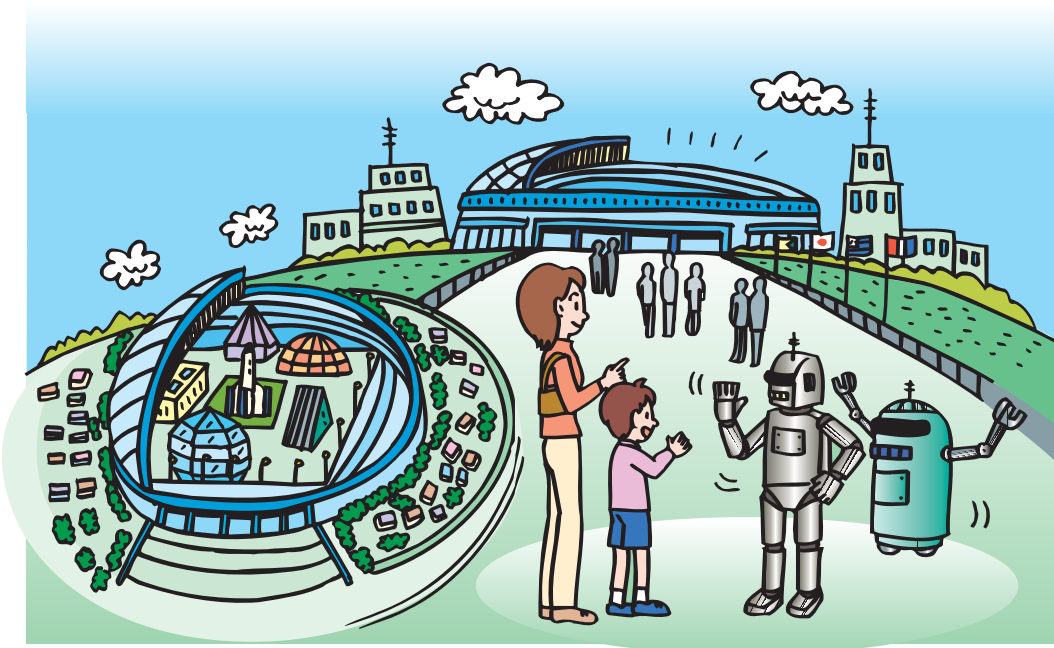
爺 うん。それもこれから次第だよ。例えば、独創企業ができたり、和らぎ交流の範囲が広まって、ますますたくさんの人が長岡に来るようになるでしょう。そうして、日本や世界の人たちが「この近くに空港

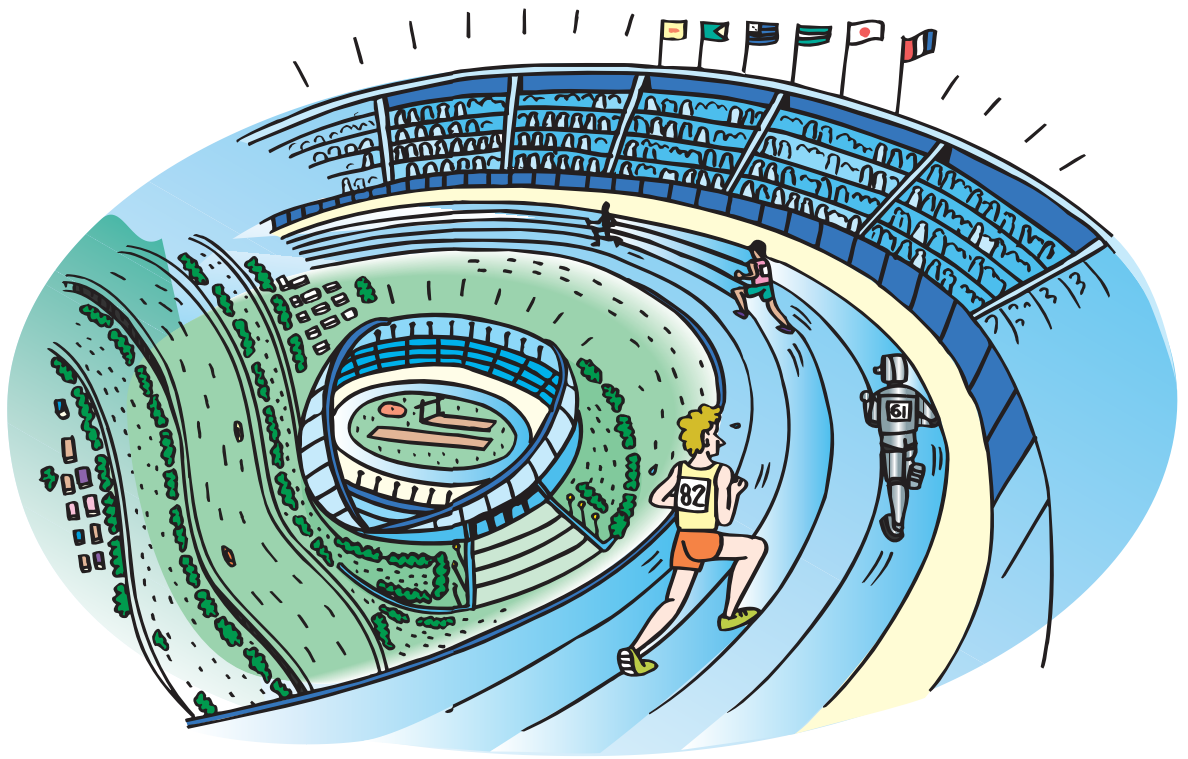
があって、直接行けるようになると便利だな」と思うようになれば、よその人たちから「新ながおかに空港をつくって欲しい」といわれる。地域からも「やはり空港が必要だ、つくろう」という声が出てくるはずさ。

孫 大学なんかもっとできるかなあ。

爺 それも空港と同じだよ。例えば地域に独創企業があるとするね。今ある企業がみんなが驚くような製品をつくるようになったらどうか。それはよそでやれないことだから、仕事がどんどん集まってくる。そうすると雇用がふえてくるし、新しい機械や最新の知識で次の開発をしようということにもなるね。大学と企業が一緒に研究や開発をすすめたいというケースも出てきて、地域に大学や研究機関が必要になるわけだよ。

孫 一つのことがいろんな面に広がっていくってことだね。





爺 そういうことだよ。一つが変わると、まわりもみんな変わってくる。安住都市が達成できれば、ここで暮らしたいと思う人たちが引越してくるかもしれない。そうすると人口が増える。なかには地元で勉強したいという人も増えてくるだろうから、そうした理由で大学が必要になることもあるよ。

孫 なるほど。独創企業ができて産業が活発になって大学や研究機関が必要になったりするだけじゃないんだ！安住都市で人口が増えていったときにも、大学ができる場合があるんだね。

爺 そうしていろいろ変わって行って、県の人たちみんなが長岡に県庁があったほうがいいなあと思えば、県庁も移ってくることだってあるかもしれないね。

孫 そうか。地域の価値を高めていくと、そんな可能性もあるんだね。

爺 ただ大事なのは、こういう大きな夢のカタチはこの地域の人だけじゃなくて、新





潟県全体の人や日本の国内の人たち、あるいは世界のいろいろな国の人に共感をもって理解してもらう必要があるということだよ。いろんな人の理解や協力があって実現できることだからね。新ながおかの地域らしさ価値を高めるように一生懸命に活動して、地域のすばらしさや、かけがえのなさを知ってもらうことが大事だな。

孫 じゃあ、うちの町内から地域らしさ価値を高めていくことにしよう。私にも何か出来ることはないかなー。

爺 隣の町では子どもからお年寄りまで一緒になって道沿いに木の苗を植えて、緑を増やそうとしているそうだよ。

孫 まさに、世代がつながる安住都市だね。よーし、私も今度、子ども会に相談して、まずゴミを拾って道路をきれいにするところから始めようかな。私の町内は素敵だからここに住みたいって人が増えたら、うれしいな。

